

[ミニシンポジウム 2002年10月13日]

制限の三つ組み

理学療法士 古西勇

キーワード： 社会運動、第3世界

A triad of limitations

Isamu Konishi, P. T.

Abstract

This is a short essay on the author's background. The main aim of this text is to introduce a new concept of value to rehabilitation professionals.

key word : social movement, the third world

20年前、私は美術工芸専攻の大学生であった。ある日、書店で本を散策していたとき、『生きのびるためのデザイン』（ヴィクター・パパネック著、晶文社1974）という著名なデザイナーの本に出会った。

その本の中で述べられていた価値観に関する考え方を、まずご紹介する。

「人間は、人類を入れる独房ともいべき鉄の三角形の中に閉じ込められている。この三角形の一辺は、そのなかに人間が生きてゆかなければならない媒体としての環境であり、次の一辺は、それでもって生きてゆくために、人間にそなわっている知識や技術、または適合させてゆく能力であり、そして第三番目の一辺は、人間が死を免れぬ存在だという事実である。」

彼は、その三角形を「制限の三つ組み」と呼んでいた。

「生への意志があるとするならば、それは、このように人間を閉じ込めている三角形を突破することでなければならない。（中略）この目的が生に意味と本質を与えるのである。」

その本を読んで、パパネック氏の説得力のある哲学が自分の勉強に意味を与えてくれるような気がした。彼は「人間が本当に必要としているものを探ること、とりわけ巨大な『少数者』たち—第三世界の人びと、病人、老人、身体障害者—に向けてのアプローチこそデザイナーの責務である」と意見を述べていた。

「しかし、一体どこで力がかしたらいのだろうか」「要求はどのようなものであろうか……」私の自問する日々が続いた。運よく、私はタイにおけるインドシナ難民のためのボランティアとして働く機会を学生時代に得ることができた。そのような興奮する運

動に関わったことで、自己の見方が変わった。

10年前、私はカンボジアにおり、そこで欧米から来た数人の理学療法士と知り合った。私は1988年から93年までの間カンボジアに滞在し、ある日本のNGOを代表して人道援助のために働いていた。

当時は、戦闘が頻繁に穴ぼこだらけの幹線道路に集中し、何千人もの村人が安全を求めて国内を避難するという状況であった。地雷で手足を失った人のような弱い立場の人々を考えてみていただきたい。彼らはどうやって「制限の三つ組み」を克服できたのだろうか。

欧米の理学療法士たちは、カンボジアでリハビリテーション従事者の養成を行うと同時に、さらに関係当局と共同してその国民に必要な総合的なリハビリテーション計画を立案する努力に多大な時間を割いていた。私はそういう仕方で仕事をするのを励まされ、それが私がPTになろうと思った理由の一つであった。